水玉(みずたま)の　つき草添へて　彼(か)の岸へ
言告(ことつ)げ渡す　七夕(たなばた)の橋

令和六年七月二十八日

大中臣正比呂

処暑(しょしょ)の最近傍(きんぼう)の新月の日から数えて、七日目が七夕(たなばた)の日である。
日本の季節は、一年を四等分し、その春夏秋冬を順に六等分する二十四節気で表す。秋の第二番目の処暑とは、猛暑も落ち着く頃の意であり、八月二十三日頃となる。七夕は秋であり、令和六年の七夕は八月十日である。
露草(つゆくさ)は「月草(つきくさ)」とも呼ばれ、この頃にも未だ十分な花を咲かせる。
織姫は天(あま)の川(がわ)の橋を渡った岸で、吾が恋文を受け取ってくれるだろうか。